**動物看護総合実習　手引き　（学生）**

はじめに　（一般社団法人日本動物看護職協会　倫理綱領前文より一部抜粋）

　動物も人と同様に、自らの存在を尊重され、健やかな生活を送ることを願っている。しかし、動物たちには言葉はなく、直接人間に訴えることはできない。人間は、動物たちが人間に何を望んでいるかを常に考え、動物たちの思いに応えなければならない。

動物看護師は、動物の看護を業務として動物医療の最前線で活動する専門職である。

　動物の看護は、多様な環境に生存する多様な動物種を対象として、動物の健康の保持と増進、病気の予防と動物医療の補助に務め、動物たちが健やかな一生を全うするように援助することを目的としている。

　動物も個々の個性がある事を認識し、時期と状況に応じた個別的判断や創造的思考を持って、動物看護を行う能力を養う必要がある。そのためには、動物の特性を把握し、その動物にとって幸せとは何か、ＱＯＬ（生活の質）を高めるためにはどのような援助をすればよいか考え、実際に実践していく必要がある。

　動物看護総合実習は、体験によって必要な技術を実践できる能力を養うだけではなく、自らの人間性を養い、専門職としての資質を高める場である 。

1. 動物看護総合実習の目的

■ 理解型実習の目的

　１．動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解する。

　２．動物病院内で動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解す

る。

　３．学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ることで、必要性や

　　　目的を理解し、意欲の向上を図る。

■ 体験型実習の目的

1. 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、スタッフの構成等）を理解し、**自身が動物病院でどのように加わるかを考える。**
2. 学校で修得した知識や技術が、動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する。
3. 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を築くために必要な技術や能力を修得する。

■ 実務型実習の目的

1. 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解し、**チームで行う愛玩動物に対する医療を体験する。**

２．総合的な動物看護の実務に関わる指導を受け、動物看護師実務能力を修得する。

３．動物看護師としての役割や責任について、認識を深める。

1. 動物看護総合実習の目標

■ 理解型実習の目標

　１．オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解す

る。

　２．獣医師・動物看護の業務内容（役割の違い、一日の流れ、など）を把握する。

　３．動物病院の施設を見学し、施設の概要や機能を理解する。

　４．動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。

　５．学習者として適切の行動できるよう、社会常識やマナーを実践する。

　６．学内でのカリキュラムや各教科と動物病院における実際の動物看護業務との関

連を知り、必要性を理解する。

■ 体験型実習の目標

1. オリエンテーションを受け、**実習を通して実際の動物看護業務を体験し、その職務内容を理解する。**
2. 可能な範囲で行う実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。
3. チームで行う愛玩動物に対する医療は、獣医師・動物看護師・スタッフ全員がそれぞれの役割を担いつつ、協力し合うことで最善の成果を出せることを理解し、良好なコミュニケーションを構築する。
4. 動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について理解する。
5. 学内でのカリキュラムや、各教科と動物病院における実際の動物看護業務との関連について、認識を深める。

■ 実務型実習の目標

1. オリエンテーションを受け、**動物看護師として実際に就業することを理解する。**
2. 指導者の助言を受けながら動物病院における獣医師との連携のなかで看護計画の展開を修得し、動物看護実務を遂行できる能力を養う。
3. 動物看護に関する多くの項目についての技術を、可能な限り体験し学習する。
4. 動物病院内における動物看護師の役割や、チームで行う愛玩動物に対する医療の機能、行動、責務について考えることができる。
5. 動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など、基本的な事項について認識を深める。
6. 学内でのカリキュラムや、各教科と動物病院における実際の動物看護業務との関連を十分に把握し、実践に活かす。
7. 動物看護総合実習の履修時間と実習計画

■ 理解型

【２４時間】

【 ２時間】

【 ２時間】

【１６時間】

【 ４時間】

理解型実習総履修時間数　　　１年次前期

理解型実習前教育

理解型実習オリエンテーション

理解型実習

理解型実習後教育（振返り）

　　■ 体験型

【２４時間】

【 ２時間】

【 ２時間】

【１６時間】

【 ４時間】

体験型実習総履修時間数　　　１年課程修了後～２年次前期

体験型実習前教育

体験型実習オリエンテーション

体験型実習

体験型実習後教育（振返り）

■ 実務型

【２４時間】

【 ２時間】

【 ２時間】

【１６時間】

【 ４時間】

実務型実習総履修時間数　　　２年次体験型実習修了以降

実務型実習前教育

実務型実習オリエンテーション

実務型実習

実務型実習後教育（振返り）

1. 実習前に達成すべき課題

実習においては、学内の講義・実習で得た専門知識と技術を統合する必要がある。

また、動物の健康を維持するためには、自身が健康でなければならない。

１）動物や飼養者を理解するための基礎的な知識を身につけておく。

２）認定動物看護師養成に必要な専門知識を身につけておく。

　３）動物病院の法的根拠を把握し、関連する法令を知っておく。

　４）実習の目的を十分理解し、実習段階ごとに自己の目標を設定し、限られた実習

期間内で達成可能な目標を決めておく。

　５）自分が感じたこと、学んだことを相手に理解できるように記録するために表現

の方法について練習しておく。

　６）自分が自立しているか見直し、自分の事は自分でできるようにしておく。

　７）自己の健康管理に十分留意し、規則正しい生活を心がけておく。

　８）実習に持参するものを点検しておく。

９）最終的な教科としての評価がある事、また評価指標を理解者して実習に臨む。

1. 実習のための準備

・学習履歴の確認と自己分析。

・目的と目標の設定、実習において実現可能な行動計画の立案。

・ポートフォリオの作成目的の確認と作成要領の把握・練習。

・実習項目チェックリストの記録方法の確認。

・実習先についての情報収集。

　 　〈実習先の情報をあらかじめ入手することで、実習に対する不安を軽減し、注意を喚起する事ができる。〉

　　〈実習先のオリエンテーションで実習担当者より説明を受けることで、説明内容

と事前情報が比較検討でき、実習をより効果的に実施することが期待できる。〉

　　　１）施設や業務についての情報。

　　　２）利用者や動物についての情報。

・インターン実習保険等の加入を確認する。未加入であれば加入手続きを行う。

1. 実習の心得

実習期間中は○○○○専門学校の学生としての自覚を持ち、良識と節度ある行動を心がけ、常に感謝の気持ちを忘れず取り組む。

・実習時に留意したいこと

　１）安全面に配慮して行動する。

　２）動物医療現場では、禁句とされている言葉が出ないように確認しておく。

　３）禁句ではないが、病名等は飼い主の前で安易に口にしない。

・コミュニケーション

　１）相手を理解したいという思いで接する。

　２）まず、相手の話を傾聴する。

　３）自分自身の心身を安定させてから、話を始める。

・観察

　１）常にＱＯＬを念頭に、何が必要か意識して観察を行う。

　２）できるだけ主観を除き、ありのままの現実を捉える。

　　　３）五感（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）をフルに活用し、あらゆる角度から観察する。

・記録

　１）他者が見ても理解できるように記録をする（申し送り）。

２）５Ｗ１Ｈ（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どのように）で記入をおこない、状況がわかるよう記録する。

　３）誤字、脱字はさけ、楷書ではっきりと記入する。

　４）メモを取っておく。

・報告

　１）報告する際は、結論・結果を最初に報告する。

　２）顛末は５Ｗ１Ｈで報告する。

　３）緊急を要する報告事項は、躊躇せずに速やかに報告する。

・服装、身だしなみ、持ち物

１）清潔で華美にならない服装にする。

２）ユニフォームや上靴は清潔なものを使用する（実習先の指定のものがある場合は指示に従う）。

３）仕事をしやすく、動物を傷つけないように爪は短く切り、職業上、不快感を与

えないように注意する（マニキュア･アクセサリーなどはしない）。

４）髪が長い場合は必ず後ろで束ね、実習の進行に支障のないようにする。

５）持ち物

　　　 　・ポートフォリオ

　　　　 ・学生証

　　　　 ・健康保険証

　　　　 ・手帳、筆記用具

　　　　 ・身の回り品

　　　　 ・その他必要なもの

・実習先の指導者に対して

１）熱心な態度で臨む（ひと言も聞き漏らすまいとする姿勢とまなざし）。

２）誠実な受け答えを心がける（うなずきと相づち）。

３）的確に復唱する（教わったことを言葉で反復する）。

 　　４）教わったことを行なう時は、余計な解釈を加えず忠実に実行する。

５）心から感謝を示す（必ず感謝の言葉を述べ、恩義を忘れない）。

 ・利用者や動物に対して

１）守秘義務

　　　　　facebook・LINE・TwitterなどのＳＮＳを利用した情報発信は、刑罰の対象となることもあり厳禁。実習内容や自分自身の感想も就業期間中はもとより、就業期間終了後も情報の発信をしないよう十分に注意する。

２）言葉づかい

お客様や飼い主に対して言葉も正しく使い、丁寧に接するように心がけ、挨拶は口先だけでなく、はっきりと相手に伝えるようにする。

・その他の留意事項

１）元気で明るい挨拶。素直に話を聞く。

２）いつも笑顔を絶やさない。

３）実習生として常に冷静であるよう心がける。

４）決められた時間と場所を守る（５分前集合）。

５）持ち込み禁止の物を持ち込まない（携帯電話やカメラなど）。

６）実習中に身体に異常があれば、すぐに作業を中止し実習先指導者の指示を仰ぐ。

７）事故やけが（動物、自分も）、動物の逃走には充分気をつける。

８）実習先指導者の許可なしに動物には触らない。

９）実習先で示された規則・約束事を守る。

１０）実習先の機器、物品等を壊した場合は、すぐに実習先指導者に報告し、また学校にも連絡する。

１１）実習先の指示を守り、不明なことは進んで質問し、積極的に実習する。

１２）実習中にハラスメントを感じた場合は、まず学校に連絡する。

１３）自分で考えた目標を意識して行動する。

１４）毎日の終わりに１日を振り返り、できなかったことを確認し、翌日の目標を考

え「ポートフォリオ」に記入する。

・勤務時間と出勤時間

１）勤務時間ならびに出勤時間は実習先によって異なるため、各実習先の指示に従う。

２）実習開始指定時刻（勤務開始時刻）の１５分前には着替えを済ませ、準備を整えて待機する。

３）終了時刻前に自己判断で実習終了（準備を含む）しない。

・実習時の健康管理

１）実習前から規則正しい生活を送る（健康維持・事故防止）。

　２）体調管理に気を付ける。事故防止に努め、休まず参加する。

３）行動範囲に注意し、制限区域に入らない（安全確保、機密保持のため）。

４）病気などで予定が変わったら必ず実習先の指導者、もしくは担当者及び担任に連絡する。

５）指定日以外に病気等でやむを得ず休む場合は、その理由を実習先、学校の順番

で両方に必ず連絡し、許可をもらう。

６）体調不良などやむを得ない休み･遅刻･早退は分かった時点で報告する。

・実習終了時について

 　　　　　　　実習期間中に遅刻･欠勤の多い者、及び実習先の指示に従えず、受入先からクレーム等がある学生は、直ちに企業実習を中止する場合がある。

1. 実習後の振り返り

・実習先にお礼状を出す。

・実習後の自己評価。

１）自己分析表への記入。

　　　実習を通して習得できた知識や情報等、ポートフォリオを参照しながら、自己

分析表に記載する。

２）自己評価シートの作成。

　　　評価基準に沿って自己評価を行うが、その際に自身が記入したポートフォリオ

を参照らしながら、自己評価をおこなう（他者と相談しながらも可）。

３）自己分析、自己評価を参照しながら次の課題点をまとめ所感欄に記入する。

・報告会の開催

　１）グループワークによる相互評価や情報の共有を行う。

　２）実習報告会にて発表を行う。